豊田中学校　学校だより
豊 田 の 里
令和元年 12 月 11 日
第 １０ 号
発行　豊田中学校

～　ながふじ学府一体校建設工事　その３　～



校長講話「突然ですが…」
～答えが一つではない問題～

突然ですが、この問題の答えを考えてください。

Mary had 60 cents. She paid 35 cents for a Chocolate Bar.
How much change will she get?

この算数の問題は、アメリカの小学校２年生の算数の問題です。

この答えは、暗算の得意な皆さんなら直ぐに答えられますね。



メアリーは６０セントを持っていて、３５セントのチョコバーを買ったので、６０－３５で残りは２５です。

しかし、この正解は、これだけではありません。

なぜならば、メアリーが持っている６０セントの内訳が詳細に述べられていません。

アメリカでは、通常１セント、５セント、１０セント、２５セント硬貨を使います。

とすると、彼女が持っているのは、１セント６０枚、５セント１２枚、１０セント６枚、２５セント２枚とその他コイン、等何通りも考えられます。

だから、おつりはいくらですか？という問いには、簡単に２５セントだとは言えないのです。何通りかの答えが存在する。そうした問題がアメリカの教科書には載っています。

そうした、答えは何通りもあることを学ぶのが算数の授業で求められているのです。



今朝のニュースで、OECD（経済協力開発機構）が行う PISA の結果について報道されました。この調査では、科学的応用力、読解力、数学的応用力の３つの力を調査されます。

２００６年のこの調査で、日本はそれまで参加国の上位だった結果が大幅に下がりました。その結果を受けて、４月の全国学力状況調査では、読解力を問う問題が出されるようになりました。特に、根拠を示して考える力、情報の真偽を確かめる力に課題があるとされています。これは、国語の力がないということではなく、論理的な思考、説明ができるかどうか、ということが問われているのです。

そのために、国語の授業以外でも、多様な考えを学び、自らの意見を根拠をもとに説明するような話し合いの場面を設定することが求められてきています。

日本の教育は間違いなく世界のトップレベルですが、「暗記物」には強く、「応用力」が弱いということなのです。

常に柔軟な思考をして、多くのアイディアをもって主体的に考えるような勉強をすることが大事で、そうしたカをもった人を経済界では求めているのだ、ということなのだと私は思っています。

テストで何点取ったということも大事ですが、そうした深い学びができているかどうかを考えてみたいものです。

～　ｽﾅｯﾌﾟｼｮｯﾄ　第Ⅳ節「学び・充実」　～











